

新潟平野における排水対策

新潟平野は、昭和20年代までは「地図にない湖」が存在し、腰胸まで浸かった稲作が営まれていたが、国営土地改良事業の実施等により、平野の約半分に当たる5万haを乾田化し、我が国有数の穀倉地帯に発展。

腰までつかり農作業



提供：亀田郷土地改良区

約1万haの農地は、現在も海拔0m以下であり、これまでに築かれた大規模排水機場や近代的な用排水網により優良農地を維持。

新潟市の中心街は殆ど日本海平均潮位以下(青色部分)



※ 黄色破線はかつての砂丘

- 新潟平野には大小あわせて78箇所の排水機場が存在し、新潟平野の農業生産の安定のためには、これらの施設の適切な維持管理、適時適切な更新整備が重要。
- 現在、西蒲原地区においては、老朽化が顕著となっている新川河口排水機場、新川右岸排水機場の更新整備を行うため、国営新川流域農業水利事業(H18~26)を実施中。

新潟平野における排水機場



排水機場の更新整備

国営新川流域農業水利事業 (H18~26)



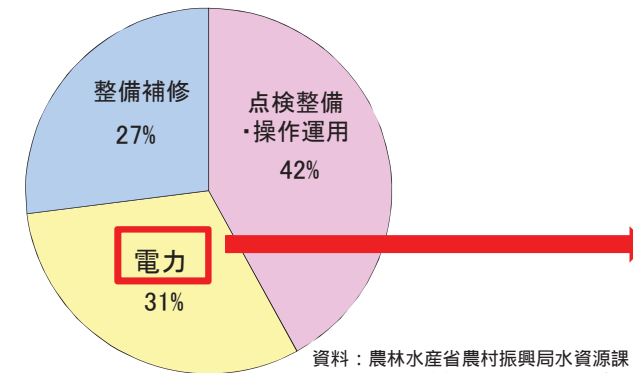
<新川河口排水機場>

国営土地改良事業の歩み(新潟平野)



施設の維持管理費の内訳

維持管理費に占める電力料金が3割を占め、土地改良区は大半を支払うために大きな負担となっている。



資料：農林水産省農村振興局水資源課施設保全管理課調べ(平成22年度)

各地区における電気料金(平成24年度)

地区名	電気料金
亀田郷	1億21百万円
西蒲原	4億79百万円
白根郷	1億29百万円